

障がい福祉瓦版

親なきあとを考える

■問い合わせ先 市障がい児者相談支援センター ☎(37)9970

市障がい児者相談支援センターに寄せられる様々な相談の中で、障がい児者の親御さんから「自分が亡くなった後、この子はどのように生活をしていくのだろうか」との声を聞くことが少なくありません。

そこで今回は、この「親なきあと」の不安についてお伝えします。

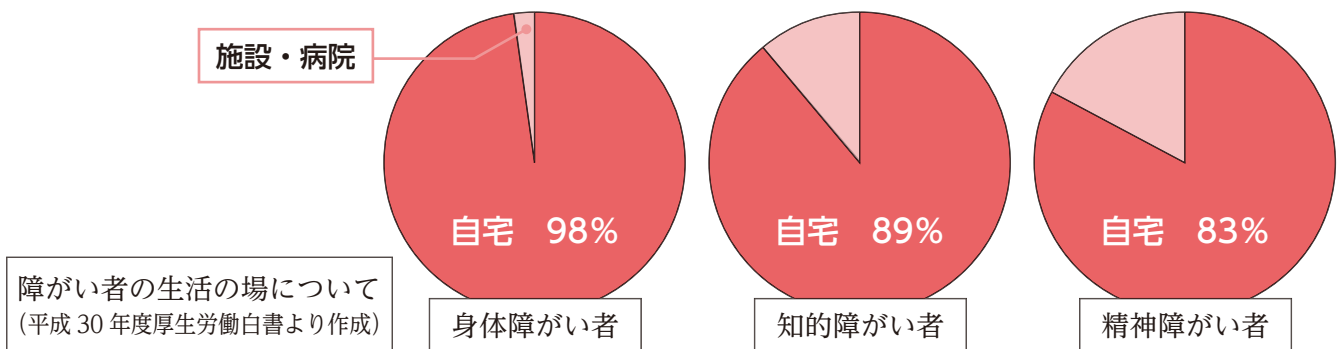
障がい児者の生活と家族

障がい児者の多くは、自宅で生活をしています。制度やサービスが整備されつつある昨今、障がい児者の生活をサポートする環境は整ってきてはいるものの、やはり同居している家族の尽力が欠かせないのが現状です。親御さんが抱く将来への不安は必然と言えるでしょう。

では、障がい児者の生活で親御さんが担っている役割は何でしょうか。食事や掃除、洗濯といった家事に加え、お金や貴重品の管理や移動のサポート、

行政の手続きなど、家庭によって差はあれ、その範囲はとても広いです。親御さんの担う役割の多さに比例して、親なき後の不安も大きくなっているようです。

こういった不安と同時に、親御さんの希望も併せて聞かれます。「自分が元気なうちにはできるだけ一緒に暮らしたい」「住み慣れた下野市でこれからも生活してほしい」といったものです。では、障がい児者の将来を考えたとき、不安を解消し、具体的に取れる手立ちはあるのでしょうか。



将来への不安との向き合い方

将来に対する不安と向き合い、じっくりと考えてみることも必要です。じっくり考え、不安の中身を具体的にしてみるのです。不安の内容を具体的にすることで、それに対する手立てや、優先順位を決めることができます。

様々な情報に触れることで優先順位を決めかねた

り、どんな手立てを採用すべきなのか迷ってしまったりしたときには、ご家族だけで考えずに、第三者に相談することが有効です。市障がい児者相談支援センターの活用も考えてみてください。日常生活の様子をお聞かせいただき、そこから今後の生活について何を準備していくべきなのか、一緒に考えさせていただきます。

家族としていまできること

今からでもできること、それは、ご家族のサポートがなくなった状況を想定したときに、当事者であるご本人は何が得意で、何が苦手なのかを改めて考えてみることです。そして、苦手な部分をサポートできるものが身近にあるのか、何が活用できるのか考えてみましょう。

制度やサービスに限らず、地域全体を見渡して考えることが大切です。近隣の方のさりげない見守りも、生活の中で活用できる貴重な資源です。

障がいがある当事者と周囲の繋がりを数多く作っておくことも、将来の暮らしを支えるために大切です。

親なきあとの支援について講演会を開催します

障がい児者の「親なきあと」について、今知っておきたいこと、これから準備することについて学ぶ講演会を開催します。貴重な機会ですので、ぜひご参加ください。

■日時 1月21日(火) 午前9時50分～正午

■場所 市役所

■演題 障がいのある子の「親なきあと～親あるあいだ」の準備

■講師 渡部伸氏 (渡部行政書士社労士事務所)

■参加費 無料

■申し込み・問い合わせ先

市社会福祉協議会 ☎(43)1236 ☎(44)5807